
Tag Force ~Duel school~

朧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Tag Force ~Duel school~

【Zコード】

Z4603Y

【作者名】

朧

【あらすじ】

時は2XXXX年、

デュエルモンスターZを基本とする世界。

そんな中、君たちは聖戦学園というものを聞いたことがだろうか？日本から、少し離れた位置に存在する島にある学園である。そんな学園に一人の男がやってきた。名を『紅コナミ』。

彼は、この学園で何をもたらすのか？

——限りない平和——

——それとも、絶望の世界——

その結末は、大いなる神のみぞ知る…

プロローグ（前書き）

私、朧の小説第一弾！

不定期更新になるよていですが、
よろしくお願ひします。

プロローグ修正

プロローグ

一船一

「ナミ・side

自己紹介からするとどうつか…

僕の名前は『紅』『ナミ』。

ラグナロクアカデミアの高等部一年生に編入予定の、ビルにもいそうな平凡なデュエリストや。

僕はとある事情から高等部一年生で編入という形でラグナロクアカデミアに向かっているところでなんだ。

そんなことはさて置き、自己紹介はそろそろにしておいて、ビルやら目的のラグナロクアカデミアが見えてきたみたいだ。

この先、一体、どんなデュエリスト達が、僕を待っているのだろうか？

僕は、今鳴り始めたこの胸の高鳴りを抑えることはできない…

⋮ ⋮ ⋮ ⋮

プロローグ（後書き）

“いつも！某満足小説でお馴染みの臘です。
初めての人ははじめまして、知ってる人はこんにちわ！新しい小説
を書き始めました。

某満足小説とは、関連性はありませんが、あつちで採用できないも
のを、基本こぢらで採用するつもりです。

ですので、どんどん発言してください。許容範囲はあります、で
きるだけ採用をせらむりますのでどうかよろしくお願いします。

こんな感じではじまります。
次から、話が進みます。

～全ての始まり～（前書き）

まだ、決闘しません。

TFキャラも出ません。

～全ての始まり～

—学園港—

「ふう、やつと着いた…」

僕は船から降りて脱力感を覚える。
流石に、半日もかけた航海は、体に疲れが生じるものなんだな…
ふと、周りを見渡すと、一人の黒服がこっちにやってきて話をしあじめた、

「お待ちしておりました…
ワタクシ、ラグナロクアカデミアの執事長をやらせて頂いている、
セバスチャンと申します…
どうぞコナミ様…
こちらへついて来てくださいませ…」

セバスチャンと名のる老人が僕を案内してくれる。
これは推測なんだけど、恐らく理事長室にでも案内してくれるのかな?

—理事長室—

「ノンノンノンノンノン」

セバスチャンが扉を叩く。

「ヴォーダン様、『ナミ様をお連れしました…いかがなさいましょう?』

予想通り、僕は理事長室に連れてこられた。そして、セバスチャンの疑問に答えるべく僕を中心に入れようとしてかえってきた。

「ではワタクシはこれで失礼します…」

セバスチャンが去って行く。
さて、中に入るとしますかな…

ガチャリ、

「失礼します」

中には豪華な額縁の絵が飾つてあつたり、北欧神話の伝説の槍、グングニルを模した槍が飾つてあつたりと、普通ではない空間が広がっていた。

「久しぶりだなコナミよ…
ようこそ!」

我が、ラグナロクアカデミアに!」

そう言つるのはこのラグナロクアカデミアの理事長でもあり、僕をここに呼んだ張本人である。名を『ヴォーダン・グングニー』と言つ。

「はい!

お久しぶりですね、ヴォータンさん!」

「ハハツ、ここではヴォーダンさんじゃなくて理事長と呼んでくれたまえよ?」

笑ながら、ヴォータンさんに言われて、僕は少し顔を赤くする。たしかにここでは理事長の方がいいよね……

「さて、堅苦しい挨拶はここまでだ。

君の部屋に案内しよう……

これが君の鍵と制服だ。

今日は休みだから友好関係を築くことも兼ねて見回るといいだろ?」

そう言って「291」と書かれた鍵と、制服やその他もろもろを僕に渡してきた。

そして、裏の更衣室のようなどこりで、僕は制服に着替えさせてもらった。

ゴソゴソ、

よし、制服にも着替えたし学校見学とでも行きますかな……

「じゃあ、これで失礼します」

「つむ……」

僕は理事長室から出ていった。

さてと、これからどうしまじょつかな?

～全ての始まり～（後書き）

校長と執事長登場！

次回、TFキャラリと遭遇させるつもりです。

～初めての友、初めての決闘～（前書き）

初友 & 初決闘！

～初めての友、初めての決闘～

—廊下—

「ナミ：side

理事長と別れた後、僕は自分の部屋を探していた。
それにしても、結構歩いたハズなんだけど、こここの生徒が全く見当
たらないな……

この学園はかなり広い施設が沢山あるから、みんなそつちにいるの
かな？

「ん？ 貴様見かけない顔だな……」

不意に僕は後ろから声をかけられる。
振り返つて見ると、そこにはブラック・ヤツク感満載の男子生徒
が居た。

「僕は明日から編入するから見かけない顔で正解だよ。
ちなみに、僕は高等部一年生の紅「ナミ」って言つんだ。
えつーと、君の名前は？」

「編入生か……

私は瓶田武司と言つものだ。

お前と同じ高等部一年だから、これからよろしく頼む……」

僕たちは軽い自己紹介を済ませた後、武司に頼んで僕は学校案内を
してもうひとつこした。

「『』の学園に編入出来たということは、余程腕の立つデュエリスト」ということでいいのだな？」

後で私とデュエルしてもらいたいのだが構わないか？」

武司がそんなことを聞いてくる。

実力で編入したって訳じやないけど、そつとやぢょつとじや僕は負けないつもりだ。

「わかつた、そのデュエル引き受けるよ。

デュエルスペースとかあつたら案内してもらえないか？」

武司が頷き、僕たちはデュエルスペースに足を運んでいった。

—デュエルスペース（小）—

「他にもデュエルスペースは幾つかあるんだが、恐らく満杯だらうから、ここでデュエルすることにしよう…」

そう言う武司が決闘盤を構える。

それに合わせて僕も決闘盤を構える。

「全力でいくよ！」

「望むところだ！」

「『デュエル！』」

「先行は私だ！」

「私のターン、ドロー！」

手札6枚

「私は瓶亀を守備表示で召喚！
カードを一枚伏せてターンエンドだ！」

『瓶亀/Jar Turtle』 +

効果モンスター

星4／水属性／爬虫類族／攻 200／守2100
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、
「強欲な瓶」が発動する度に自分のデッキからカードを一枚ドロー
する。

強欲な瓶を背負つた亀が現れた。
その名の通り、恐らくあの伏せカードは…

「僕のターン、ドロー！」

手札6枚

「手札から、太陽の神官を守備表示で特殊召喚！」

『太陽の神官/Oracle of the Sun』 +

効果モンスター

星5／光属性／魔法使い族／攻1000／守2000
相手フィールド上にモンスターが存在し、
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、
このカードは手札から特殊召喚する事ができる。
フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、

自分の「デッキから「赤蟻アスカトル」または「スーパイン」1体を手
札に加える事ができる。

「さらに、ワン・フォー・ワンを発動！効果でスーパインを特殊召喚
する！」

『スーパイン/Supain』 +

チューナー（効果モンスター）

星1／地属性／悪魔族／攻 300／守 100

フィールド上に存在するこのカードが

カードの効果によって墓地へ送られた時、

自分のデッキから「太陽の神官」1体を特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したモンスターの攻撃力は倍になり、
このターンのエンドフェイズ時に持ち主の手札に戻る。

「5太陽の神官に、1のスーパインをチューニング！
闇に月満ちる時、魔の囁きが聞こえ出す。
死へと誘え、シンクロ召喚！
いでよ、月影龍クイラ！」

『月影龍クイラ/Moon Dragon Quilla』 +

シンクロ・効果モンスター

星6／闇属性／ドラゴン族／攻2500／守2000

「スーパイン」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが攻撃対象に選択された時、

攻撃モンスターの攻撃力の半分だけ自分のライフポイントを回復す
る。

フィールド上に存在するこのカードが破壊された場合、

自分の墓地に存在する「太陽龍インティ」1体を特殊召喚する事が

できる。

「さらに、赤蟻アスカトルを通常召喚！

そして、墓地のレベル・ステイラーのモンスター効果発動！
月影龍クイラのレベルを一つ下げる、墓地からこのカードを特殊召喚する！

5になつた月影龍クイラに、3の赤蟻アスカトルをチューニング！

太陽昇りし時、全ての闇を照らし出す。

降り注げ光よ、シンクロ召喚！

いでよ、太陽龍インティ！」

『レベル・ステイラー／Level Eater』 +

効果モンスター

星1／闇属性／昆虫族／攻 600／守 0

このカードが墓地に存在する場合、自分フィールド上に表側表示で存在する

レベル5以上のモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターのレベルを一つ下げ、このカードを墓地から特殊召喚する。

このカードはアドバンス召喚以外のためにはリリースできない。

『赤蟻アスカトル／Fire Ant Ascator』 +

チユーナー（効果モンスター）

星3／地属性／昆虫族／攻 700／守1300

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

自分の墓地に存在するレベル5のモンスター1体を選択して特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚されたモンスターの効果は無効化され、

そのターンのエンドフェイズ時に墓地へ送られる。

『太陽龍インティ／Sun Dragon Inti』 + シンクロ・効果モンスター

星8／光属性／ドラゴン族／攻3000／守2800

「赤蟻アスカル」 + チューナー以外のモンスター1体以上
このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、
このカードを破壊したモンスターを破壊し、

そのモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手ライフに与える。
フィールド上に存在するこのカードが破壊された場合、

次のターンのスタンバイフェイズ時、

自分の墓地に存在する「月影龍クライラ」1体を特殊召喚する事がで
きる。

「いくぞ！

太陽龍インティで瓶亀を攻撃！」

「させるものか！

罠カード、サンダーブレイクを発動！

手札を一枚捨てて、太陽龍インティを破壊する！

『サンダー・ブレイク／Raigeki Break』 +

通常罠

手札を一枚捨て、フィールド上に存在するカード1枚を選択して発
動する。

選択したカードを破壊する。

インティに雷が落ちてインティが破壊される。
だがインティが破壊されることは僕の思つ壙なのだよ！

「これで僕はターンエンドです」

手札2枚

場無し

伏せ0枚

「フン、あれだけやつていてフィールドにはその虫だけか：ではいくぞ！」

私のターン、ドロー！」

手札4枚

「この瞬間、太陽龍インティのモンスター効果発動！このカードが破壊された次のスタンバイフェイズに、墓地から月影龍クイラを特殊召喚する！」

日は沈みまた月が昇る…

その大自然の摂理は誰にも止める事は出来ない…

蘇れ、月影龍クイラ！」

これがインティ&クイラコンボ、僕のデッキのテーマであり、切れ札でもある。

「な？」

そんな効果があつたとは…

ならば私は伏せてある強欲な瓶を発動！

デッキから一枚ドローする。

瓶亀もいるので一枚ドローだ！」

『強欲な瓶』 Jar of Greed +

通常罷

自分のデッキからカードを一枚ドローする。

「マンジュー・ゴットを召喚！

効果で亀の誓いを手札に加えそのまま発動！

マンジュー・ゴットと瓶亀を生贊に捧げ、クラブ・タートルを儀式召喚する！」

『マンジュー・ゴッド / Manju of the Ten Thousand Hands』 +

効果モンスター

星4／光属性／天使族／攻1400／守1000
このカードが召喚・反転召喚に成功した時、
自分のデッキから儀式モンスターまたは
儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

『亀の誓い / Turtle Oath』 +

儀式魔法

「クラブ・タートル」の降臨に必要。
フィールドか手札から、レベルが8以上になるようカードを生け贊
に捧げなければ、

「クラブ・タートル」は降臨できない。

『クラブ・タートル / Crab Turtle』 +

儀式モンスター

星8／水属性／水族／攻2550／守2500

「亀の誓い」により降臨。

フィールドか手札から、レベルが8以上になるよう
カードを生け贊に捧げなければならない。

場に亀の甲羅を背負つた蟹が現れる。

あれ？

『絆を信じろ！』とか、『オレはレアだぜ？』とか、『アクセルシ

ンクロオオオオオ！……』とか聞こえて来るのはなぜだらうか？

「バトルだ！」

「いい、クラブ・タートルで月影龍クイラに攻撃！」

蟹が襲いかかってきた。

『これが絆の力だ!』なんて聞こえたのは気のせいだろうか?

「モンスター効果発動！」

月影龍クイラが攻撃対象になつた時、攻撃モンスターの攻撃力の半分を回復する！」

L
P
4
0
0
0

クラブ・タートルのハサミが月影龍クイラを挟み潰した。

『クリアマイイイイイシシシー』なんて聞こえたのは氣のせいである。

「ぐつ、月影龍クイラの効果発動！」

太陽龍インテーを蘇らせん！

新編和漢書

ケイテと入れ違いにインテイが蘇る……

この二つのはまさに太陽と月の関係そのものだ

「私は、カードを一枚伏せてターンエンドだ！」

手本
之本

場
クラブ・タートル

伏せ
2枚

「僕のターン、ドロー！」

手札3枚

「墓地のスーパーバイと赤蟻アスカトルを除外して、手札から泣き神の石像を二体特殊召喚する！」

『泣き神の石像／Weeping Idol』 +

効果モンスター

星2／闇属性／岩石族／攻 0／守 500

自分の墓地に存在するチューナー1体をゲームから除外して発動する。

このカードを手札から特殊召喚する。

「2の泣き神の石像二体をオーバーレイ！二体のモンスターで、オーバーレイネットワークを構築、エクシーズ召喚！
こいつ！ダイガスタ・フェニクス！」

『ダイガスタ・フェニクス』 +

エクシーズ・効果モンスター

ランク2／風属性／炎族／攻1500／守1100

レベル2モンスター × 2

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を一つ取り除き、自分フィールド上に表側表示で存在する

風属性モンスター1体を選択して発動する事ができる。

このターン、選択したモンスターは一度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

「（くつ、エクシーズモンスターじゃ漆黒の落とし穴が使えない！）

「

『漆黒の落とし穴／Deep Dark Trap Hole』

通常罠

レベル5以上の効果モンスターが特殊召喚に成功した時に発動する事ができる。

そのレベル5以上の効果モンスターをゲームから除外する。

「ダイガスター・フェニクスのモンスター効果発動！

オーバーレイユニットを一つ取り除き、このターンの終了時まで、場の風属性モンスター1体は一回攻撃することが出来る！

僕はダイガスター・フェニクス自身を選択する！」

ダイガスター・フェニクスがオーバーレイユニットである光の球体を取り込み、力を込み上げている。

「いくよ！

太陽龍インティでクラブ・タートルを攻撃する！」

「クラブ・タートルを倒して直接攻撃するつもりらしいが無駄だ！
速攻魔法、収縮を発動！

太陽龍インティの攻撃力を半分にする！」

『収縮/Shrink』

速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターの元々の攻撃力はエンドフェイズ時まで半分になる。

「それはこいつの台詞だ！」

くつ、太陽龍インティが戦闘で破壊された時このカードを破壊したモンスターを破壊し、そのモンスターを破壊して攻撃力の半分のダメージを与える！

L P 5 2 7 5 L P 4 2 2 5

「なつ？」

インテイにもそんな効果があつたのか！

「その通りさ！」

インテイの効果で武司に1125ポイントのダメージを与える！
それとダイガスター・フェニクスの一回の攻撃で僕の勝ちだ！」

L P 4000 L P 0

ふう、手強い相手だつた

「いいデュエルだつた」

そろそろ、口ナラの寮部屋を探すとしよう

「いつもこそ、楽しい決闘をありがとう。」

今度は僕の部屋の案内も頼むよ」

「ああ、任してくれ」

そうして僕たちはその場を去つていった……

「へえ、あのボウヤ、瓶田よボウヤを倒したのね……」

「うわああああああああーーー！」

「ダイガスタ・フェニクスで直接攻撃！」

? ? ? : side

私は、たまたま通りかかったデュエルスペースで対戦している一人を見ていた。

結果は、赤い帽子のボウヤが勝った。

それにしてもあるボウヤ…

見たこともないシンクロモンスター達で瓶田のボウヤを圧倒していたわ…

「……、……！」

「…「ナミの…、……」

二人が何かを話している。

あなたは「ナミ」という名前なのね…

ふふふ、あなたは私の求める強い男なのかしら？
一度、デュエルしてみたいわね…

～初めての友、初めての決闘～（後書き）

最後にみさなん「存じのあのお方です。

出して欲しいタッグフォースキャラがあれば、男女セットで教えてください。もしかしたら、採用できるかもしれません。

～学園の女～（漫畫）

武田との約後。

文を見やすくしました。
こんな感じでいいのでしょうか？

～学園の女王～

—「ナミの部屋—

僕は武司との決闘が終わった後、自分の部屋を案内してもらった。そこで武司と別れた今、自分の部屋をかなり堪能している。先に荷物は用意していたらしく、ダンボールが部屋の彼方此方に置いてある。

後で整理するとしよう。

そんなことより、僕の部屋はどんなものだつて？
僕の部屋は八畳で、ベットとテレビとクローゼットが置いてあるだけの、至って普通の部屋でみたいだ。

ここでは完全寮制のようなので、食事や入浴は時間によって決められた制度になつており、部屋にはある程度必要なものしか置いておけない。

とまあ、そういうことで。

とりあえず、時間も時間だし、夕飯を食べにいくとしよう。
武司を誘おうとも思ったものの、急に頼むのも気が引ける。
なので、僕一人で食堂に向かうこととした。

：

—食堂—

一瞬迷つたものの、そこはなんとか辿り着くことができた。
少し時間が早かつたらしく、周りに人はあまりいなかつた。
さて、何を食べようか？

何々、焼肉定食と、お魚定食が一番安いみたいだな…
僕は、迷った挙句、焼肉定食を食べることにした。

「ありがとうございましたー」

店員がそう言つたのだが、レストランや「コンビニでもないのにその台詞はおかしいと思うのは気のせいだろうか?
それはさて置き、どれどれ?
早速焼肉定食を味わつてみることになりますかな…
つと思つていたのだが、一人の少女がこっちにやって来て、僕は箸を止めた。

「ねえ、隣いいかしら?」

紫色の髪に、ツインテールが特徴的な女の子がやつてきた。
見る限り、僕と同じ年みたいだけど、名前はなんて言つんだり?~

「別に構わないけど、君の名前は?」

「高等部一年生の『藤原 雪乃』よ。」

あなたは確か…コナミツヒコというのかしら?~

どうやら、僕の名前を知つてゐるらしい。
もしかして武司とのデュエルを見ていたのだろうか?

「ああ、僕の名前は紅 口ナリ。

君と同じ高等部一年生さ。

明日から編入するから、よろしく頼むよ」

「ええ、こちらこそ。

早速で悪いのだけど、食事が終わつたらデュエルの相手をしてくれない?

あなたの実力を感じてみたいの…」

握手をすると、予想外の返事が返つてきた。どうやら、僕とデュエルがしたいらしい。

武司の時も思ったのだが、初めての相手にデュエルがしたくなるのはデュエリストの本能なのだろうか?

とりあえず僕はOKのサインを見せた。さてと、改めて焼肉定食をいただくとしますかな…

パクリ、モグモグ…

これは…

めちゃくちゃ美味しい!

多分僕の人生で食べてきただ食事の中で、一番美味しい部類に入るで

あらう味だった。

「どう?」

「この食事は美味しいでしょ?」

多分、この味は普通のレストランより美味しいハズよ」

やはり、この食事は在学中の雪乃が絶賛する程の味みたいだ。
話を聞く限り、他の料理も相当美味しいらしい。

これから学園生活が、かなり楽しみになってきた。
とりあえず、今はこの焼肉定食を味わうことにしておこう…

「ねえ、この料理も美味しいわよ?」

良かつたら一口どうぞ」

そう言つて雪乃が自分の箸で掴みながら、魚であるうつ物を僕の口に近づけてくる。

ありがたく僕はそのままそれを頂いた。

さてと、モグモグ…

おおー!

これもやはり美味しい!

どんな料理をすればこんな味になるのだろうか?

「ふふ、どうやら良かつたみたいね?
さてと… そろそろ食べ終わらせてデコホールしましょう!」

確かにこのまま食事に時間かけていたら、入浴のことも考えてデュエルする時間がなくなってしまう。

それは残念なので僕はさっさと食事を済ませることにした。

モグモグ…

やはり美味しい…

（食後）

—決闘場（小）—

食堂でご飯をすませた後、僕たちは武斗場でデュエルしたデュエルスペースへと到着していた。

「準備はいいかしら？」

そう言いながら、雪乃がデュエルディスクを構えて、準備ができたことを示している。

「ああ、こつでも構わないよ」

僕もデュエルディスクを構える。

「デッキは、前回と同じく『インティ&クイフ』なのだが、少し改造を施してある。後、雪乃はどんなデッキなのだろうか？」

「デュエルが楽しみだ。よし、いくぞ！」

「決闘！」

「先行はボウヤに上がるわ……」

ボウヤ呼びされたが気にしない。

「なら、ありがたくもう一つ。僕のターン、ドローー！」

手札6枚

「モンスターをセット、カードを一枚伏せてターンエンドだー！」

手札3枚
場セツトモンスター

伏せ2枚

「私のターン、ドローー……」

手札6枚

「私はソニックバードを攻撃表示で召喚、効果で『テッキから高等儀式術を手札に加えるわ…』

『ソニックバード/Sonic Bird』 +
効果モンスター

星4／風属性／鳥獣族／攻1400／守1000

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、

自分の『テッキから儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

『高等儀式術/Advanced Ritual Art』 +
儀式魔法(制限カード)

手札の儀式モンスター1体を選択し、そのカードとレベルの合計が同じになるように自分の『テッキから通常モンスターを墓地へ送る。選択した儀式モンスター1体を特殊召喚する。

それにもしても、さつきから雪乃の行動が一つ一つが妖しい。

僕は気にしないのだが、周りの生徒たちの視線が釘付けにはなつていて、デュエルしそういたらありやしない。

それはさて置き、どうやら、雪乃は儀式使いのようだ。

高等儀式術を加えたからにして、『リチュア』はないだろう。
多分、『デミス』か『神光の宣告者』なのだろうか？

「バトル、ソニックバードでセットモンスターを攻撃！」

音速で突っ込んでくるソニックバード。

破壊されたのは、巨大ネズミだ。

「破壊された巨大ネズミのモンスター効果発動！」

効果でデッキから赤蟻アスカトルを特殊召喚する!」

『巨大ネズミ／Giant Rat』 †

効果モンスター

星4／地属性／獣族／攻1400／守1450

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力1500以下の

地属性モンスター1体を自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

「あら、チューナーが出てきたなんて不味いわね…
メインフェイズ2に、手札から地碎きを発動よ…
効果で赤蟻アスカトルを破壊ね…」

『地碎き／Smashing Ground』 †

通常魔法

相手フィールド上に表側表示で存在する守備力が一番高いモンスター1体を破壊する。

空中から拳が振り下ろされる。
はいはい、地碎き、地碎き。

「ふふ、これで私はターンエンドよ…」

手札5枚
場 ソニックバード
伏せ 0枚

満足そうな顔をしている雪乃。

アスカトルを倒して満足してるところ悪いんだけど、今回のこのギックの切り札はインティじゃないんだよなあ～

「僕のターン、ドロー！」

手札4枚

「僕は手札から太陽の神官を特殊召喚！

さらに、墓地の赤蟻アスカトルを除外し、泣き神の石像を特殊召喚！そしてフィールド魔法、死皇帝の陵墓を発動！」

『死皇帝の陵墓 / Mausoleum of the Emperor
or』

フィールド魔法

お互いのプレイヤーは、アドバンス召喚に必要なモンスターの数×1000ライフケイントを払う事で、リリースなしでそのモンスターを通常召喚する事ができる。

「死皇帝の陵墓？

生贊モンスターは揃つてゐるのにわざわざライフケイントを払うのかしら？」

雪乃が僕に聞いてくる。

「いいや、フィールド魔法という存在が必要なだけさ！
太陽の神官と泣き神の石像をリリースし、地縛神 Wiraqoc
ha Rascaをアドバンス召喚！」

『地縛神 Wiraqocha Rasca / Earthbound Immortal Wiraqocha Rasca』 + (アーメ版)

効果モンスター

星10／闇属性／鳥獣族／攻

1／守 1

このカードがフィールド上に表側表示で存在する場合、

「地縛神」と名のつくカードを召喚・反転召喚・特殊召喚する事ができない。

フィールド上にフィールド魔法が表側表示で存在しない場合、このカードの以下の効果は無効となり、このカードはエンドフェイズ時に破壊される。

このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

相手モンスターはこのカードを攻撃対象にする事ができない。

このカードは相手の魔法・罠カードの効果を受けない。

1ターンに1度、自分のターンのバトルフェイズをスキップする事で、相手ライフを1にする事ができる。

フィールドに、かなり大きなコンドルが現れる。

正直、このデュエルスペースじゃ足りていらない気がする。

それにも、まさか『こいつ』から戦いたいなんて言つとは思つていなかつた。

自分から戦いたいって言つたのは『あいつ』以来だろうか？

ということは雪乃はかなりの実力者らしい。

「じ、地縛神？」

か、かなり強そうなモンスターね！」

「強いのは見た目だけじゃないよ？」

神の名前は伊達じゃないってね！」

地縛神 *WiraqochaRasca* のモンスター効果発動！
僕のバトルフェイズをスキップして、雪乃のライフポイントを1に
する！」

「な？ ライフポイントを1にするですって？
そんなの反則じゃない！」

雪乃がかなり焦っている。

僕も初見ではかなり驚いたものだ。

それに、どうやら雪乃だけではないらしく、
周りの見ていた他の生徒も驚いていた。

「僕もそう思うよ…

でも、『こいつ』から戦いたいって言っているから相手してやって

欲しいんだ…

そういうわけで、悪いね。

ライフポイントを1にする！

ボーラスター・オベイ！」

Wiraqocha Rasca から、闇の波動が大きく広がり、
その波動が雪乃を襲う。

「それってどういう意味なん…
きやあ！」

L P 4 0 0 0 0 L P 1

「これで僕はターンエンド！」

手札0枚

場 地縛神

W i r a q o c h a R a s c a、死皇帝の陵墓

伏せ 2枚

「ふふ、ゾクゾクするわね？」

私のターン、ドロー…」

手札6枚

「私はサイクロンを発動よ。

効果で死皇帝の陵墓を破壊するわ…」

『サイクロン / M y s t i c a l S p a c e T y p h o o n』
+

速攻魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

「させない！

カウンター罠発動、魔宮の賄賂を発動！

効果でサイクロンを無効にし、破壊する！」

『魔宮の賄賂 / D a r k B r i b e』 +

カウンター罠

相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。
相手はデッキからカードを1枚ドローする。

「くつ、魔宮の賄賂だつたなんて…

でも効果でドローさせてもらうわよ…

つて、あら？

今日の私はツいてるみたいね…

一枚目のサイクロンを発動よ。

もう一度死皇帝の陵墓を破壊するわ…

サイクロンが死皇帝の祭壇を襲い破壊する。まさか一枚目を引くな
んて…

流石に『こいつ』が認めるだけはあるな！

「これで地縛神のモンスター効果は無効になつた…」

地縛神はフィールド魔法が無いと、紙同然なのである。

それに W i r a q o c h a R a s c a は、効果こそ凶悪なもの
の、攻撃力はたつた1しかないのだ。

これは…かなり不味いか？

「ふふ、今が攻め時みたいね？」

手札から儀式魔法、高等儀式術を発動よ！

デッキから鉄鋼装甲虫を墓地に送り、手札から終焉の王テミスを儀
式召喚するわ！」

『終焉の王テミス／Demise，King of Armag
eddon』

儀式・効果モンスター

星8／闇属性／悪魔族／攻2400／守2000

「ハンド・オブ・ザ・ワールド」により降臨。

フィールドか手札から、レベルの合計が8になるようカードを生け贋に捧げなければならない。

2000ライフポイントを払う事で、

このカードを除くフィールド上のカードを全て破壊する。

『鉄鋼装甲虫／Metal Armored Bug』 +
通常モンスター

星8／地属性／昆虫族／攻2800／守1500

全身が分厚い装甲で覆われている巨大な昆虫型生物。
行く手を妨げるものは容赦なく破壊する。

雪乃のデッキは『デミスドーザー』だったのか…
ライフポイントを1にされたのは辛かつただろつな…

「手札から思い出のブランコを発動！
効果で墓地から鉄鋼装甲虫を特殊召喚よ！」

『思い出のブランコ／Swing of Memories』 +
通常魔法

自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択して発動する。
選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ
時に破壊される。

「ふふ、これで終わりね？

伏せカードなんて気にしないで、ソニックバードで地縛神 Wir
aqoqua Rasc aに攻撃よ！」

伏せカードに警戒しないか…

生憎、僕の伏せカードは『聖なるバリア・ミラーフォース』なのだ
が、そこは地縛神 W i r a q o c h a R a s c a を出したんだ
し、その対価として、その勇気を貰うとしますかな！

『聖なるバリア・ミラーフォース・ / M i l l e r o r Force』

+

通常罠（制限カード）

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在する攻撃表示モンスターを全て破壊する。

「何もないぜ…」

L P 4 0 0 0 L P 2 6 0 1

小さな鳥に倒される地縛神って、なんかシユールだな…
少し W i r a q o c h a R a s c a が悲しそうに見える。

「ふふ、その伏せカードはブラフみたいね？
なら本当に終わりよ。

鉄鋼装甲虫で、ボウヤに直接攻撃…
痛いのは、最初だけ…」

鉄鋼装甲虫が二つちに突っ込んでくる。
それにもしてもソリッドヴィジョンは相変わらず怖すぎると…
ああもう、二つちくんな…！…！

「うわあああああ！！！」

L P 2 6 0 1 L P 0

「あーあ、僕の負けだよ。
雪乃はかなり強いんだな……」

雪乃：side

私はコナミのボウヤにデュエルで勝ったのだけれど少し残念ね…
ボウヤは私の求める真の男だと思っていたのだけれど、所詮カード
に頼っている普通のデュエリストだったみたいだわ…

「ボウヤが弱いだけよ。

そりいやさつきこいつが戦いたいなんて言つたけど、あれってどう意味なのかしら…

「あー、悪いな雪乃。

そろそろ僕の風呂時間だから、ここひで失礼させてもらひつよ…ちよつと、待ちなさい…

「それじゃあ！」

ボウヤが去つていく。

あのことを聞いたと思つていたのに…

ボウヤつたら、逃げたわね？

「あのー、雪乃様？」

そんな時、私の元に、私のことを慕つてくれる後輩の一人がこつちにやつてきた。

一体、何のようなのかしら？

そしてその子は、私に衝撃の事実を伝えた。

「なんなんですかさつきの男！

あんな反則級なモンスターを使っておいて、最後の最後に手を抜くなんて…

雪乃様のことを舐めすきじゃないですか？」

「…え？ それってどういつ…

「さつきの伏せカードですよ！」

あれはプラフなんかじゃありません！」

「本当に？」

「ええ！

あの伏せカード、聖なるバリアーミラー・フォースでしたよ！

あの野郎：

雪乃様に失礼だからって手を抜くなんて…

そっちのほうが失礼ですよね！

「って、ヒイ！

雪乃様！

顔が怖いです！」

私は彼女の話を聞いて、身体の奥底から怒りが込み上げてくるのを感じる。

あのボウヤ…

私から逃げたことといい、手を抜いたことといい、これはオ・シ・オ・キが必要なのかしら？

「ふふふ…

「ヒイ？」

紅 「ナミ…

私を怒らせたことを後悔させてあげるわよ？

—風呂場—

「くつくしゅん！」

お湯に浸かっているのにくしゃみが出るなんて…

風邪でも引いたのかな、俺？

それはさて置き、少し時間が早すぎたのか食堂よりもひどく、人がひとりもいなかつた。これは残念だな。

風呂場でも武司や雪乃みたいに、少しでも友人を増やしたかったのだが、人がいないのなら仕方がないね。

さてと、体も洗ったし、そろそろ上がるとしますかな…

— ハナミの部屋 —

ふう、いい湯加減だつた。

さて、これから整理でもするとじょうか？
そう思った時、理事長からメールが届いた。内容は、明日から授業
があるから、その準備をしていろとのこと。

僕はそのメールを見て、明日の準備を始めたことにした。
教科書などは、明日に教室で渡すから、ノートとデュエルディスク、
それとデッキを持つてこいとのことである。
それを聞いて、僕はせっせと準備を進めることにした。

（数分後）

さてと、準備も済ましたし、時間も時間だから寝ることじょうか…
荷物の整理はー、明日にするとしよつ。
それじゃあ、お休みなさい…

僕はベットに入つて、意識を落とした…

（早朝）

「ふあ～、早く寝た……」

僕は眠りから目覚めた。

寝るのが早かったので、気持ちのよい目覚めだった。
そして時計の針は8時をさしているみたいだね…
つて、

「うわああああ！

このままじゃ遅れるじゃないかああああ～！」

この学園では午前8：30までに教室に居ないといけないのだ。

それに、僕がまだこの学園の地形を把握できていないのと、朝ご飯

のことも考えると、これはかなり不味い。

僕は誰かが起こしてないと起きれないタイプであり、前の時もよく失敗したものだ。

前までは『あいつ』に起こしてもらっていたから安心できたものの、居なくなつてからこの有様だよ～。

寝癖直して、制服に着替えて、鞄もつて…

ああもう～！

忘れ物だよー。
忘れ物！

こんなことなら田舎まし時計でも用意するべからだつたよー。

～学園の女神～（後書き）

ところが、ついで藤原雪乃参戦！

後、うちの地縛神さんはかなり小さいです。

どの位かといふと、大型トレーラー三台分位です。

もう一つの小説で、ゆきのんを出して欲しいとの意見がありました
が、じつは小説で出すことにします。

ウイラコチャラスカつてだいぶチートですよね。バーンと組めば負
ける気がしない。赤き竜？何それ美味しいの？

ゆきのんの口調が難しそう…

どうしても「…」か、「？」の多い口調になってしまつ…アドバ
イスをいただけないでしょ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4603y/>

Tag Force ~Duel school~

2011年11月17日17時32分発行